

100年
カンパニー
の知恵。

鈴木商館 (東京)

since 1905



鈴木商館が手がける事業で今後も成長が期待される極低温分野について続ける。

医療から気球、風船まで、ヘリウムは多用途だが、天然ガス採掘の際に採れる副産物。輸入に頼り、国内流通量が一定せず、品薄になることがある。

昆虫のように強く

そこで、一度冷却に用いてガス化したヘリウムを回収して液体に戻す「ヘリウム再凝縮装置」を開発し、大学研究室などの小規模施設に向けて製造・販売を進めている。他にも、排ガスを嫌う食品物流倉庫などに適した、燃料電池で動くフォークリフトの「水素ステーション」事業にも乗り出した。注目されている水素に関し、フォークリフトに特化して中小企業ならではの活路を見いだそうというものだ。

鈴木商館が創業110周年記念に製作したリーフレットは「ガス事業部門」「化

社業を通じて
社会の進歩と
繁栄に貢献する

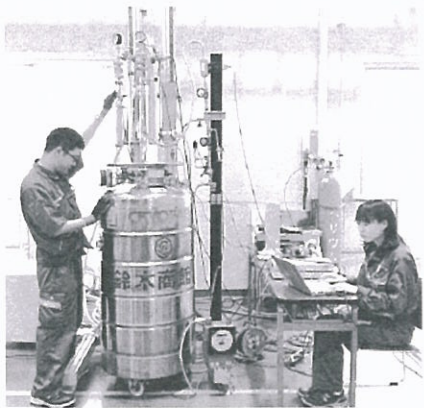
学品事業部門」「低温部門」の各事業とともに「海外展開」を掲げる。タイとマレーシアに海外子会社・関連会社があり、事業展開する。

両国の日系工場の多くが、故障した真空ポンプは廃棄して、高価な新品を日本から輸入していた。故障品を日本に移送して修理後に戻すよりも、新品を買う方が安上がりだからだ。

そこに目をつけた。真空ポンプの修理は鈴木商館にとってお手のもの。各ポンプメーカーと代理店契約を結び、両国の国内での修理事業を軌道に乗せている。

バブル崩壊やリーマン・ショックも乗り越えた鈴木商館は現在、従業員約410人、年商約300億円。鈴木慶彦社長は「適正な規模」と明言し、こう言って笑みを浮かべた。

「小さいけれど必要とされ、世界の変化に順応していく。そんな誇り高き中小企業でありたい。最近では『昆虫のように』と、例えて言うんです」【佐藤浩】



鈴木商館の「ヘリウム再凝縮装置」＝同社提供